

市長とおしゃべり しませんか？

今回は定山溪地区の
皆さんと、お話ししてきました。

テーマ

定山溪について語ろう

札幌の奥座敷として全国的にも知られる定山溪温泉。
今回は定山溪地区のまちづくりについて、
上田市長と地域の住民の方が“おしゃべり”しました。

- 日時／平成17年11月23日(祝)午後2時～4時
- 会場／定山溪温泉「ホテル鹿の湯」
- 参加人数／約90人



このページについてのお問い合わせは、
市民の声を聞く課 ☎211-2042へ。
内容は、市長のホームページ
www.city.sapporo.jp/city/mayor
からもご覧いただけます。

定山溪地区住民

いちじょう
一條さん



私が聞く限り、観光客の方は歩いて楽しい観光地を求めています。しかし、今の定山溪は温泉街に入るとちょっと寂しいです。そこで、自然と一体化した、歩きたくなるまちづくりを進めるべきだと思います。

また、定山溪に住む人が楽しく暮らしていることが、今後の集客につながっていくと思っています。

じゃらん編集長

なかた
ヒロ中田さん



私が編集している旅事情報誌「じゃらん」の調査では、定山溪温泉を訪れた人の割合や満足度は、年々高まっています。その要因は手湯、足湯などの新名所ができたことで、定山溪地域内の回遊性が増したことだと思っています。この結果に満足せず、これからも魅力を創出することが大切では。

定山溪連合 町内会会長

なかにし ひろし
中西 博さん



定山溪地区は、郷土博物館や保養施設、まちづくりセンター、小学校など、市の公共施設が分散しています。今後、改修する際は、統合した施設にすることで利便性が高まり、まちづくり活動の場としても期待できるのではないのでしょうか。

市長から 今後の施設の改修についても、地域が一丸となって策定した現在のまちづくり計画と同様に、地域の皆さんと市と一緒に考えていきたいと思っています。

市長から

自然と一体化した歩きたくなるまちづくりという提案については、私も同感です。また、定山溪に住んでいる方が日々楽しく暮らし、ここだけは負けないというまちの個性ができれば、お客様の満足度が高まり、まちも豊かになると思います。

市長から

地域の皆さんの努力が報われて、年々、評価が上がっていくのはうれしいですね。ホテルから出る食べ残しなどを堆肥化し、それを利用して野菜を作る。そして、その野菜をお客様へ提供するなど、環境にも配慮した試みを行うなどすれば、定山溪の新たな魅力を増やしていくことができるのではないのでしょうか。

国道230号線問題 検討推進部会 事務局長

ふかい
深井さん



定山溪地区を通る国道230号の拡幅やまちづくりについて検討しています。検討の際、以前は行政と住民が意見をぶつけているだけでしたが、ここ数年は行政が地元の熱意を受け止めて、共に考えてくれるようになりました。今後も、地域で知恵を出し、行政とともにまちづくりを盛り上げていきたいです。

市長から

ぜひ、これからも、皆さんから意見を言っていたいただき、行政も柔らかな頭で対応し、住民、事業者、行政などみんなで定山溪のまちづくりを進めていきたいと思っています。

定山溪の新名所

定山源泉公園

昨年8月に完成した定山源泉公園。足湯のほか温泉が流れる湯の滝がある。



無料で利用できる足湯「長寿と健康の足つぼの湯」。

足湯

温泉街のいたるところでシンボルの「かっぱ」がお出迎え!

